

令和7年度 江戸川区立本一色小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○考える子 ○やさしい子 ○たくましい子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○基礎・基本の定着を確実にし、確かな学力を身に付けられる学校。 ○教師一人一人がやりがいを感じ、情熱をもって教育活動を実践できる学校。 ○家庭・地域と協力し、心豊かな児童が育つ学校。 ○学校や地域の歴史、環境を大切に、故郷として誇りがもてる学校。
前年度までの本校の現状	成果	課題	○引き続き、基礎・基本の確実な定着を図る。 ○自分の考えを適切な言葉で話したり、相手の話を丁寧に聞いたりする姿勢をさらに身につけさせる。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価(A～D)		「年度末」学校関係者評価(A～D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学校と民間事業者による放課後補習教室の実施	・放課後補習教室への登録率100%	80%	90%	B	今年度は4年生以上に学年を絞り、実施している。講師とも連携を取り、児童の学力向上につなげたい。	B	・業者と担任との連携は時間がとりづらい。 ・家庭学習の習慣が必要。	B	年度途中から、担任との面談の中で受講につながった児童もいた。3学期はほぼ定員枠が埋まっている。保護者からは、指導内容について要望の声が上がることもある。	B	高学年になるとプライドがあり参加したからなくなる傾向。徐々に効果が出てきている。理解度の深まりを。	使用するプリントの内容や構成を、担当者と学習教室の先生とですり合わせをしっかりと行う。
		・「本小スタンダード」の定着	・「本小スタンダード」が身につけている児童を90%以上にする	80%	80%	B	教員で共通理解を図り、定着できるように今後も指導していく。	B	・夏休みの宿題…質と量 少なくなっている感じがする。 ・集団生活に慣れるのも学校の役割だが、やはり学校は学習が主。	B	「本小スタンダード」については、90%の児童が守れている。どのクラスでもどの先生でも、同じスタンスで指導するという心掛けをきた。	B	鹿本中学と上一色中学とでは、進学希望者が多いのは、鹿本中。私学希望者も増加傾向。	宿題を出すからには教師側もしっかり内容をみて指導していく。学年主任を中心に指導の重点を明確に。
	○読書科の更なる充実	・図書館を使った調べる学習コンクールの取り組み	・応募率を3年生以上は100%、1、2年生は20%以上	90%	90%	A	3年生以上は、ほぼ全員が提出することができた。1、2年生は10%弱であった。	A	・図書館に実際に足を運んで、自分でたどり着くのがいい。 ・自分で課題を見つけて深堀するのがいい。 ・コンビニがない頃、店の人とやりとりしながら買っていた（コミュニケーションが自然ととれていた。） ・（ネットでは）情報を探す過程を学べない。情報の取捨選択ができない者が多い。 ・脳筋と費用、効率化すると心の中に残りにくい	A	5年児童が「江戸川っ子読書科コンクール」に作品を出した。教員の働きかけにより、図書館に通う児童の数は増えている。	A		A
体力向上	○個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・毎週、朝15分間の運動タイム実施	・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が体力を高めようとしていると回答	80%	80%	B	週一回の運動タイムは、暑さ対策もあったが、場を工夫して実施できている。	B	・プールについて プールは暑さ対策で実施できないことが多くなっている。プールのある学校とない学校がある。	B	体力テストの結果を分析すると、どの学年も「投げる力」が劣っていることが分かった。学習の内容や運動委員会の呼びかけなども検討し、今後改善を図っていく。	B	地域の少年野球チームも縮小している。中学校の野球部員数も激減傾向である。運動環境による。ポッチャの大会は増えた。	日常的に「投げる」運動ができるよう、校庭に投力を養うコーナーをつくり、遊べるようにする。
		・学期に1回のなわ跳び週間の設定	・児童アンケートの結果で、80%以上の児童が縄跳びに楽しく取り組むことができたと回答	100%	100%	A	なわ跳び週間は毎学期計画をしている。10月には、講師を招いて出前授業を行う予定である。	A		A	講師による模範演技を見てから、児童の中にも縄跳びを楽しみたいという声が増えてきている。次年度以降も、児童がより興味もてる内容を計画していく。	A		短縄・長縄ともに継続して取り組む。瞬発力・持久力と共に協調性を養う。
実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用、日本語指導員や日本語教室との連携	・毎月1回、通常学級担当教員と特別支援教育担当教員の打ち合わせを実施	100%	100%	A	児童についての情報交換を密に行い、指導に活かせるようにしている。	A	・（日本語指導は一之江小、ことばときこえの教室は大杉小との連携はよいが）情緒固定級について、巡回指導「いぶき」への判定も難しいだろう。	A	週1回のみ自校に勤務している巡回指導教員との打ち合わせはなかなか厳しいものがあるが、放課後の時間などをやりくりして情報共有を行っている。	A	全く日本語が理解できない状況で来日する外国人が増加傾向。中国語・英語だけでなくネパール語等、多言語に対応が必要。	日本語指導の指導員と共に、年間スケジュールを立てて、進捗を確認しながら実施する。
		・エンカレッジルーム（ほっとルーム）の保護者への理解啓発	・年度初め、年度終わりの全学年の保護者会でエンカレッジルーム（ほっとルーム）を紹介	100%	100%	A	今年度からエンカレッジサポーターを任用した。児童の登校や学習支援に活用している。	A	・どういった人が担っているか？（元介助員） ・どのように実施しているか？（基本的に教室で児童と共に過ごしている）	A	使用する部屋について、やや固定されつつあるので、新規に使用おうとする児童画の使用を妨げることがあった。	A	保護者によってはまだ少し誤解や偏見があるようだ。（補習を行うところではない）	ほっとルームには、基本的に介助員がついていない様々なタイプの児童が来る。そのため担当の人選は慎重に行う。
		・年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施	・各学期1回以上の実施	100%	100%	A	鹿本学園との交流や副籍校交流を各学期1回以上計画している。	A	・鹿本育成室は閉鎖される。子供のホスピスができるとの情報もある。地域として受け入れる体制が必要ではないか。	A	各学年で計画を立て、鹿本学園との交流を行っている。次年度は、鹿本学園の児童数増加に伴い、計画の見直しが必要とされている。	A	情緒固定学級が篠崎第四にできる予定。鹿本学園や育成室など大規模工事が増える。児童の安全にも配慮が必要。	鹿本学園の学級数が増えるとのことで、交流対象学年や活動内容を見直す。

不登校・ 充いじめ め対応の 実	○豊かな心の育成	・委員会活動や係・当番活動、異学年交流などの充実	・児童へのアンケート結果で、80%以上が係・当番活動をしっかりとやっているという回答	80%	85%	B	約80%の児童がしっかりとできているので、今後も指導を重ねていく。	B	・不登校（特別な支援を要する児童）は増えているように感じる。 ・いじめは受け取り側の問題もある。	B	些細な内容のものもいじめ案件として捉え、早めに解決に結び付けている。また、いじめ防止の内容を扱った内容授業も、各学級で確実に行うことができた。	B	一人一台端末はいい道具だし便利だが間違った使い方をする子もいる。	入替やセキュリティの更新を行い、安全に使用させたい。更衣室での盗撮のような事件もあり大人も子供も意識を高める。
	○OL-Gateの活用	・L-Gateを活用し、児童の心の変化や悩みへの柔軟な対応	・児童アンケートの結果で、90%以上の児童が学校が楽しいという回答	90%	90%	A	今年度から始まったL-Gateの児童の声を大切に、より過ごしやすい学級集団をつくっていく。	A		A	L-Gateに書かれている内容については、各クラスの担任が活用することができている。今後の児童が過ごしやすい学校づくりを目指す。	A	オンラインでつながれるということは、いいことである。一方で、いじめは直接口ではなくSNS上であることも。	引き続きL-Gateを活用し、児童の心の声を聴き、学級経営に活かす。
	○教育相談の強化	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携強化	・不登校児童とのSC、SSW連携率100%	100%	100%	A	SC、SSWとは連携を密に取っている。今後もさらに強化していく。	A	・不登校（特別な支援を要する児童）は増えているように感じる。 ・いじめは受け取り側の問題もある。	A	不登校児童が、担任とSSWが連携を取ることによって放課後の登校につながることができた。一方でほっとルーム利用者は少し増えている状況にある。	A	スクールソーシャルワーカーとの連携により、少しづつ登校できるようになってきたのはよかった。いろいろな人とかがかわることが大切。	引き続き、きめ細かい対応を継続する。SSWも校内の組織に一部組み込んでいく。
学校（園） 開かれた 地域の 社会に のた 実現	○学校（園）ホームページの充実等	・学校ホームページの更新	・こまめに更新しタイムリーな情報を伝える	90%	95%	A	今後もホームページをこまめに更新し、タイムリーな情報を伝えられるように努めていく。	A		A	ホームページの更新については、内容の充実とタイムリーな更新を目指して取り組んでいく。	A		ホームページの更新については、内容を確認し、間違いがないか確かめてアップする。
	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施	・各学期に1回実施	90%	90%	A	学校評議員会でいただいた意見を教育活動に活かしていく。	A	・PTAのあり方・活動について 地区としては縮小傾向にあるが、残すべきところもあるかもしれないが、どのように誰が担うのか。	A	保護者アンケートや学校関係者評価を次年度の教育活動に活かしていく。	A	PTAがなくなるのは残念だが、若い担い手がおらず、みんな忙しいとなるとやむを得ず。新しい形での活動に期待。	PTAがなくなるが、その後継活動のボランティアを、軌道に乗せていけるよう地域と足並みをそろえる。
教育の 特色 ある 展開	○働き方改革の推進	・月1回の定時退勤日の設定	・平均退勤時刻を19時までまでに収める	80%	85%	B	定時退勤日は毎月設定しているが、定着はまだ完全ではない。	B		B	自身が担当する職務の軽重で、勤務時間に差が出てしまったことは否めない。次年度以降も、19時までの退勤を推進していく。	B	教員は普通のサラリーマンに比べ公私分けにくそう。おやじの会は存続するので、今後も継続して連携。残業=ブラックなイメージ	月1回の定時退勤を実現させるために、事前予告と仕事内容の把握・明確化に努める。
	○教員研修の実施	・教員の組織的な育成	・全教員年3回の授業公開	100%	100%	A	授業公開を2回実施済みである。	A		A	各学期に1回ずつ管理職の授業観察を設定しているが、その時間は誰が見に来てよいルールで実施した。また、若手教員対象のOJT研修を行っている。	A	先生方のモチベーションをアップさせたり、先生たちが実力をつけたりする機会があるのはいい。	構造的に育成するシステムをつくり、定着させる。
	○異学年交流による思いやりの心の醸成	・異学年集団「あすなる班」活動を年10回以上実施	・児童へのアンケート結果で、80%以上が人が困っているときは、すすんで助けているという回答	90%	100%	A	あすなる活動は内容を工夫し、高学年児童を中心に運営できている。その中で、児童の友だちを思う気持ちも育てている。	A		A	あすなる班の活動を通して、高学年児童に下級生に優しくするという意識は育っている。次年度以降は、毎年班編成を行い、より児童の他者を思いやる意識を高めていきたい。	A	今年まで「あすなる班」は固定だったが、次年度から毎年変えるようにする。	